

令和 7 年度小中一貫教育到達目標 （案）

子どもと子ども、子どもと教職員、教職員と教職員、地域と学校をつなぎ、
学びと育ちの絆が深まる宇治市の小中一貫教育

つながりとふれ合いの中で愛情や信頼を感じ、
たくましく、仲間と高め合う宇治市の子ども

令和 7 年度は、これまで、各中学校ブロックで進めてきた小中一貫教育の意義や取組の流れを丁寧に確認し、小・中の教職員の共通理解のもと、(1)～(4)の考え方にに基づき、具体的な取組を進めることとする。

(1) 9 年間を見通した子どもの育ちと学びのつながり

重点

- ◆子どもにとって、より良い育ちの場をつくる
- ◆より良い学びとなるよう、子ども自身に見通しをもたせた教育活動を行う

〈具体的な取組〉

- 「効果のある宇治市方式を進めるアクションプラン」に基づく、学力調査の結果分析、児童生徒の学力課題の把握・共有
- 市・府学力調査結果から、児童生徒の学力の伸びを分析・確認
- 児童生徒の学力課題改善に向けた授業改善
- 小中学校間での交流や授業などでの ICT の活用、タブレット端末の効果的な活用
- 小学校・中学校での授業参観・公開授業を含む合同授業研究
- 「小小連携」を通じた教員間での教育内容の共有
- 小学 6 年生の「中学校の学習・生活体験」「部活動体験・見学」を実施

(2) 連続性のある子ども理解と生徒指導

- ◆児童生徒を小中の教職員が相互に理解し、共通の姿勢で指導する
- ◆切れ目のない支援で子どもの育ちを支える

〈具体的な取組〉

- 児童生徒理解や支援に関わる部会の定期的な開催
- 小・中学校間の丁寧な引継ぎと一貫した指導・支援・対応
- 「総会」「合同研修会」でのブロックの児童生徒の実態交流や「各校の授業参観」の実施
- 就学前施設を含む地域の関係機関との連携

(3) 指導や支援に磨きがかかる教職員の連携と協働

- ◆組織的に取り組む
- ◆ブロックの教職員の実践力を向上させる

〈具体的な取組〉

- 「ブロック校長会」「コーディネーター会議」等を定期的開催
- ブロック校長会の方針の下、ラーニングコーディネーターを要として、義務教育9年間の教育目標や課題を明確にした「ジョイントプラン」を策定
- 「小中合同研究」「授業参観（研究授業）」の開催
- 学力の定着と充実・向上を柱とした小中一貫教育の推進に向け、課題解決に向けた具体的な研究・研修
- 各中学校ブロックの実態に応じた専科教員等の活用
- 市全体での「ラーニングコーディネーター会議」の定期的な開催

(4) 家庭・学校・地域でつくる育ちの輪

- ◆地域、保護者とともに子どもの育ちを支える
- ◆地域が軸となり、小中学校、児童生徒をつなぐ

〈具体的な取組〉

- 児童生徒の実態に応じた「家庭学習の手引き」等の作成・活用
- 「小中一貫だより」の発行や「ホームページ」の活用による、小中一貫教育の様々な実践が、「見える取り組み」となるよう積極的な情報発信
- 保護者、地域からの意見や考えを積極的に収集し双方向型の取組を進めるための「アンケート」等の実施・活用
- 学校運営協議会や、地域団体への積極的なブロックの取組への参加・参観等の案内